

2024年9月1日
宮崎中部教会主日礼拝
牧師 乾元美

エレミヤ書 31 : 31～34
マルコによる福音書 14 : 22～24
「主の晩餐」

【招詞】 イザヤ書 42 : 9～10a

【讚美歌】 27 「父、子、聖霊の」

【詩編交読】 詩編 3 2 編

【赦しの宣言】 イザヤ書 55 : 7 「主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。
わたしたちの神に立ち帰るならば／豊かに赦してくださる。」

【讚美歌】 206 「七日の旅路」

【祈祷】

【聖書】 エレミヤ書 31 : 31～34、マルコによる福音書 14 : 22～24

【説教】 「主の晩餐」

<聖餐の起源>

今日の聖書箇所は、イエスさまが十字架に架けられる前の夜、弟子たちと「最後の晩餐」をなさった場面です。

このイエスさまの「最後の晩餐」が、今日もわたしたちがこの後に与ります、パンと杯をいただく「聖餐」の起源となりました。

「聖餐」は、イエスさまの十字架と復活による救いを信じ、「洗礼」を受けた者が、生涯繰り返しあずかる、主の食卓です。

今日は、この「聖餐」の恵みを、改めて深く覚えたいと思います。

<過越の食事>

さて、イエスさまが十字架に架けられる前の、夜の事です。22 節にはこうありました。

「一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱えて、それを裂き、弟子たちに与えて言われた。『取りなさい。これはわたしの体である。』」

ここに、「一同が食事をしているとき」とありますが、これは、いつもの普通の晩御飯ではありませんでした。この日は、エルサレムでは、ユダヤ人たちが「過越祭」と「除酵祭」を祝うために、「過越の食事」をする日だったのです。

それで、イエスさまはそのための食卓を整えられ、弟子たちを席に着かせて、共に「過越の食事」をしておられたのです。

この「過越祭」とは、旧約聖書の時代、ユダヤ人の先祖であるイスラエルの民が、神さまによってエジプトの奴隷の家から解放された、救いの出来事を記念する日です。

神さまは、イスラエルの民をエジプトから脱出させられる時、エジプトで「すべての初子を撃つ」という災いを下されました。でも、小羊を屠って、その血を家の出入り口に塗ってあるイスラエルの家は、その災いが過ぎ越されたのです。

そうして、イスラエルの民は、エジプトを脱出させられ、奴隷から解放され、救い出されたのです。

この、神さまの救いの御業を覚えるのが、「過越の食事」なのです。そして、これは大切な行事なので、その作法や祈りの言葉は、きちんと掟で定められていたのです。

ところが、イエスさまは、パンを取り、賛美の祈りを唱えて、それを裂き、弟子たちに与えられたとき、「過越の食事」の作法にはない、新しいことを語られました。それは、「取りなさい、これはわたしの体である」という言葉です。

裂かれたパンは、わたしの体である、と言われたのです。

また、杯を取り、感謝の祈りを唱えて、弟子たちに渡され、彼らが皆その杯から飲んだ時も、イエスさまは、これまでにない、新しい言葉を語られました。それは、「これは、多くの人のために流される、わたしの血、契約の血である」という言葉です。

杯に注がれたブドウ酒は、多くの人のために流される、わたしの血だ。しかも、これは「契約の血」なのだ、と言われたのです。

弟子たちは、なぜイエスさまがこのようなことを仰るのか、その意味を十分には理解できなかったに違いありません。

しかし、神の御子であり、父なる神さまから遣わされたイエスさまは、この「過越の食事」の席で、これからご自分の身に起こることの意味を指し示し、ご自分によって、新しい神さまの救いの御業が実現することを、弟子たちにお示しになったのです。

<神の小羊>

さて、実際に「過越の食事」において、肉が裂かれ、血が流されるのは、過越の犠牲として献げられる小羊です。小羊は、エジプトの地で、神さまの災いが過ぎ越され、イスラエルの民が救い出されるために、屠られ、血を流されたのです。

ところがイエスさまは、その食卓で、ご自分が、その過越の犠牲の小羊である、と言われたのです。これから、多くの人を救うために、わたしの肉が裂かれるのだ。多くの人を救うために、わたしの血が流されるのだ。そう仰ったのです。

そして、まさにこの食事の後イエスさまは、ユダに裏切られ、捕らえられ、裁きを受け、十字架に架けられます。そして、鞭打たれ、釘打たれ、肉は裂けて、血が流されるのです。

しかし、それは、単に一人の人が処刑された出来事なのではありませんでした。

イエスさまが、「最後の晩餐」で示された通り。このイエスさまの十字架の血は、多くの人を罪から救い出すために流される、小羊の血、犠牲の血だったのです。

そのことは、十字架の死から、イエスさまが、神の力によって復活なされることで、明らかにされました。イエスさまの十字架の死と復活は、まさに「最後の晩餐」で示された通り、イエスさまの裂かれた肉と、流された血によって、すべての者が罪から解放されるという、神さまの、新しい救いの出来事だったのです。

<新しい契約>

またイエスさまは、ご自分の血が、「契約の血」である、とも言われました。

イエスさまは、十字架において流されるご自分の血によって、神さまとわたしたちとの間に「契約」を立ててくださったのです。

旧約聖書では、神さまがイスラエルの民と契約を結ばれるときに、「血」をもって、契約が締結された、ということが語られています。契約は、血が注がれることによって、効力を持つようになるのです。

この「血の契約」によって、神さまは、イスラエルの神となったださり、またイスラエルは、神の民とされたのです。

そして今やイエスさまは、ご自分の血によって、神さまと、多くの人との間に「新しい契約」を立ててくださるのです。

そして、わたしたちが、この「新しい契約」に与ったなら、神さまは、わたしたちの神となったださり、わたしたちは、新しい神の民とされるのです。

このことは、旧約聖書の時代から、神さまが約束しておられたことでした。それが、今日お読みしたエレミヤ書 31 書の部分です。31 節以下を、もう一度読みます。

「見よ、わたしがイスラエルの家、ユダの家と新しい契約を結ぶ日が来る、と主は言われる。この契約は、かつてわたしが彼らの先祖の手を取ってエジプトの地から導き出したときに結んだものではない。わたしが彼らの主人であったにもかかわらず、彼らはこの契約を破った、と主は言われる。しかし、来るべき日に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこれである、と主は言われる。すなわち、わたしの律法を彼らの胸の中に授け、彼らの心にそれを記す。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。そのとき、人々は隣人どうし、兄弟どうし、『主を知れ』と言って教えることはない。彼らはすべて、小さい者も大きい者もわたしを知るからである、と主は言われる。わたしは彼らの悪を赦し、再び彼らの罪に心を留めることはない。」

神さまは、「新しい契約」によって、「わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる」と言われます。

また、「わたしは彼らの悪を赦し、再び彼らの罪に心を留めることはない」と。

イエスさまは、まさにこの「新しい契約」を実現するためにこそ、わたしたちのために犠牲の小羊となられ、十字架によって肉を裂かれ、血を流されたのです。

そうして、わたしたちを罪の奴隷の家から解放し、救い出してくださいました。

また、その血によって、わたしたちに「新しい契約」を立ててくださったのです。

ですからイエスさまは、エジプトの奴隷から解放してくださった、神さまの救いの出来事を覚える、イスラエルの民の「過越の食事」を。御自身の十字架の血によって成し遂げられる、新たな救いの出来事を覚える「聖餐の食卓」として、弟子たちに、またわたしたちに、新しく定められたのです。

<招かれた者>

さて、この「最後の晚餐」のとき。十二人の弟子たちがイエスさまの食卓に着きました。十二人の弟子たちが、イエスさまが実現してくださる、神さまの新しい救い、新しい契約へと、招かれたのです。

このような、素晴らしい食卓へ招かれるのは、救いの恵みへ招かれるのは、十二人の弟子たちのように、イエスさまに選ばれし者たちです。

しかし、イエスさまの選びの基準は、わたしたちが考えるものとは、まるで違います。

わたしたちは、この世において、自分が何かに選ばれるためには、他よりも何か秀でていなければならない。特別な良いものを持っていなければならない。特に優れた者でなければならない、と考えます。それが、世の常だからです。

でも、十二人の弟子たちは、何か秀でていたのでしょうか。立派で、優れた、素晴らしい人物だったのでしょうか。信仰熱心で、忠実で、愛に満ちた者だったのでしょうか。

いいえ、まったく反対でした。彼らは、イエスさまに対して、とても不忠実な者でした。十二人すべてです。彼らは、この「最後の晚餐」の後、一人残らず、イエスさまにつまずき、裏切り、離反し、見捨て、逃げたのです。

この「聖餐」を定めてくださった、イエスさまの「最後の晚餐」の記事が、弟子たちの裏切りと離反の予告に挟まれていることは、驚くべきことです。

今日の箇所少し前、14:10~11には、ユダの裏切りの企てが語られています。

また、「最後の晚餐」の直後の27~では、イエスさまが、弟子たちのつまずき、ペトロの離反を予告されるのです。

しかし、彼らを選ばれたのは。あのユダでさえ、選ばれたのは。他でもない、イエスさまなのです。イエスさまは、彼らの弱さも、疑い深さも、不誠実さも、愚かさも、理解の悪さも、すべてをご存知です。

しかし、その上で、イエスさまは彼らを選んでくださった。そして、イエスさまは、何があっても、ご自分が選ばれた者を、最後まで愛し抜いてくださるのです。

なぜなら、イエスさまは、罪人を赦すためにこそ、来てくださったお方だからです。

人々を罪から救い出すために、犠牲の小羊として、屠られ、血を流すために、この世に来てくださったお方だからです。

だからイエスさまは、「聖餐」の食卓に、罪人をこそ招かれます。このわたしたちを、招かれます。

聖い、恵みに満ちた、主の食卓に招かれるのは、どうしようもない罪人たちなのです。自分で自分を救えず、神さまに背き、逆らい、自分勝手に歩んでいる、罪人のわたしたちなのです。

でも、イエスさまが選び、招いてくださるなら。そして、そのお招きに応えるなら。誰でも、どんな罪人でも、この救いの恵みの食卓に、座らせていただくことが出来るのです。

教会において、「聖餐」の食卓に着く者は、「洗礼」を受けた者です。

つまり「洗礼」は、イエスさまの十字架と復活の出来事が、わたしの罪の赦すための、救いの御業であることを信じて、イエスさまの救いの恵みの食卓への、選びと招きに、お応えすることなのです。

そして、「新しい契約」に与って、イエスさまが、わたしの神、わたしの主となってくださること。またわたしが、イエスさまのものとされ、新しい神の民とされることなのです。

神さまは、今や世界のすべての者に、このイエスさまの救いの出来事を告げ知らせ、すべての者を、イエスさまの救いの恵みへ、「聖餐」の食卓へ、招いておられます。

どうか、一人でも多くの方が、この選びと招きに、悔い改めと感謝をもって、お応えするようにと、聖霊の導きを祈ります。

<聖餐の恵み>

そして、「洗礼」を受けた者は、いただいたイエスさまの救いの恵みを覚えて。イエスさまがわたしのために裂いてくださった肉、わたしのために流してくださった血を覚えて。生涯、終わりの日が来るまで、「聖餐」の食卓に与るのです。

今現在のわたしたちは、弟子たちが「最後の晚餐」に与った時とは違って、イエスさまが目の前にいてくださるではありません。

イエスさまは、すべての御業を成し遂げられた後、復活の体をもって、天に上げられ、もはや、わたしたちの肉体の目には見えないお方となられたからです。

でも、遠く離れて、共にいらっしやらないではありません。

天に上げられたイエスさまは、弟子たち、わたしたちに、聖霊をお遣わしく下さいました。聖霊なる神さまは、天におられるイエスさまと、地上にいるわたしたちを、一つに結び合わせてくださるお方です。

ですから、わたしたちは、聖霊によって、復活し、生きておられ、天におられるイエスさまと、確かに、いつも共にいるのです。

しかし、わたしたちの心は弱く、愚かで、目に見えないものは、すぐに忘れてたり、疑ったり、不安に思ったりしてしまいます。そして、目に見える現実の方が、圧倒的に強く、確かなものに思われるために、わたしたちは、そちらに心が奪われてしまうのです。

だからこそ、イエスさまは、わたしたちの信仰を強めるために、「聖餐」を定めてくださったのです。

「聖餐」の食卓では、具体的な物質、つまり、裂かれた小さなパンと、小さなブドウ液の杯が用いられます。今日のみ言葉で、イエスさまが言われた通り。裂かれたパンは、イエスさまの体。分かたれた杯は、イエスさまの血です。「パンと杯」は、わたしたちの目には見えない、イエスさまの恵みを現わすための、目に見える「しるし」なのです。

「聖餐」は、単にパンと杯をシンボルとした、セレモニーではありません。しかしまた、「パンと杯」が、魔術的に本当に肉と血になったりするのもありません。

「聖餐」は、わたしたちが、地上に見える「しるし」を通して、目には見えない、天のイエスさまとの生きた交わりを、この体で、味わい知るためのものなのです。

ここに、天と地を結び合わせてくださる、聖霊が働いてくださいます。

パンにこの手で触れるとき。わたしたちは、まさにそのように触れるがごとく、イエスさまがわたしたちに触れて、近く、共にいてくださることを知るので。

パンを食べ、杯を飲む時。まさにそれらが体の中に吸収されて一体となる如くに、わたしたちは、イエスさまと分かち難く一体とされていることを知るので。

また、それらが、わたしたちの栄養となり、体を生かし、養い、強めるように。イエスさまの十字架と復活の恵みが、イエスさま御自身が、まさにわたしたちの存在そのものを生かし、養い、強めてくださっていることを知るので。

こうして、わたしたちは、目に見える「しるし」を通して、心を、罪に捕らわれた地上から、イエスさまがおられる天へと、高く上げていくのです。

そして、わたしたちは、見えないものを信じる信仰を、励まされ、強められ、成長させられていくのです。

<神の国の祝宴へ>

…わたしたちは、この「聖餐」の食卓に、生涯与り続けます。

そして、この地上で行われている「聖餐」は、やがて、天のイエスさまが、再び来られる終わりの日に、「神の国の祝宴」へと至るのです。

その日、イエスさまに結ばれたすべての者は皆、イエスさまによって救いを完成させられ、共に復活させられ、互いに会い見え、イエスさまの神の国の祝宴の席に、共に着かせていただくでしょう。

そして、愛するイエスさまとこの目で見え、共に新たに飲み食いするので。

今日のマルコ 14 : 25 で、「最後の晩餐」の時に、イエスさまはこう言っておられました。「はっきり言うておく。神の国で新たに飲むその日まで、ぶどうの実から作ったものを飲むことはもう決してあるまい。」

イエスさまは、この後、十字架に架けられ、死んで葬られ、復活し、地上を去って、天に昇られます。しかしその後、「神の国で新たに飲むその日」が来る、と仰っているのです。

その日が来るまでは、もう地上で、イエスさまが、ぶどうの実から作ったものを飲むことは、もう地上にはおられないのだから、決してない、ということです。

このように、地上の「聖餐」は、「神の国で新たに飲むその日」へ。終わりの日の、神の国の祝いの食卓へと向かっているのです。

いやむしろ、既にわたしたちは、この「神の国の祝宴」を、地上に居ながら、「聖餐」において、先取りさせていただいているのです。もう、主の食卓に、与っている。

あとは、イエスさまが天から再び来られた時に、すべての覆いが取り除かれ、わたしたちの救いが完成させられ、神さまの御前に立ち、イエスさまと直接会い見える日が来ることを、待つばかりなのです。

この救いの恵みの確信が、この終わりの日の希望の確かさが、「聖餐」に与る度に、わたしたちには与えられているのです。

「聖餐」は、わたしたちの信仰の糧であり、人生の糧であり、まさに命の糧です。

わたしたちは、聖書の神さまのみ言葉と共に、この救いの確かさを与えられつつ、信仰を強められ、励まされ、支えられて、歩んでいくことが出来るのです。

…最後に、「聖餐」の食卓の主人は、いつでも、どこでも、わたしたちの救い主イエスさま、ただお一人です。

いつの時代でも、どこの場所の教会であっても、このお一人の主の食卓に、すべての者が、共に与っています。さらには、先に召された者も、今生きているわたしたちも、また未来に招かれる者たちも、皆、同じ一つの主の食卓に与っています。

わたしたちは、同じお一人のイエスさまの体、同じお一人のイエスさまの血に与り、同じお一人のイエスさまの救いの恵みに生かされているのです。

ですから、「聖餐」は、主なるイエスさまとの交わりの時であると共に、イエスさまに結ばれた、すべての兄弟姉妹との交わりの時でもあります。

わたしたちは、お一人の救い主、イエスさまに結ばれたなら、互いにも結び合わされ、一つの体とされ、終わりの日まで、ずっと一緒なのです。

ですから、「聖餐」に与る度に、わたしたちは、世のすべての兄弟姉妹と共に、同じ一つの主の食卓に与っていること。同じお一人の主に、共に養われ、共に励まされつつ、共に神の国の祝宴を待ち望んでいることを覚えて、心を一つに歩んで行きたいと願います。

そして、一人でも多くの方が、イエスさまの招きにお応えできるように。

神さまが救おうとしておられる、わたしたちの大切な隣人が、一人でも多く「新しい契約」に与り、共に恵みの食卓に着くことが出来るように。共に仕え、共に祈りを合わせていきたいのです。

【お祈り】

天の父なる神さま

イエスさまの十字架と復活による「新しい契約」をわたしたちに与えてくださり、感謝いたします。また、わたしたちの信仰を励まし、強め、養うために、イエスさまが「聖餐」の食卓を備えてくださったことを、心から感謝いたします。

どうぞ、わたしたちが、すべての思いと、力を尽くして、心からの悔い改めと、感謝をもって、この恵みの食卓に与ることが出来ますように。

そして、わたしたちの心を天へと高く上げ、イエスさまの恵みによって、いよいよ励まされ、慰められ、強められて、御心に従っていく者とならせてください。

この恵みの食卓へ、あなたは、愛するすべての者を招いておられます。どうか、一人でも多くの者が、聖霊の導きによって、まことの信仰を与えられ、洗礼を受け、聖餐に共に与ることが出来ますように。

わたしたちの主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン

【讃美歌】 18 「心を高くあげよ！」

【信仰告白】 ニカイア信条

【聖餐】

【讃美歌】 78 「わが主よ、ここに集い」

【十戒】

【献金】 65-1 「今そなえる」

【主の祈り】

【祈祷】

【讃美歌】 28 「み栄あれや」

【祝福】 主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、
あなたがた一同と共にあるように。アーメン